



学校法人 電子学園

日本電子専門学校

令和6年度 第二回学校関係者評価委員会

令和6年11月25日（月）



— 本日の予定 —

全体会：

午後3時00分～

午後5時00分



校 長 挨 拶

船 山 世 界



令和6年度前期取組みについて 中間報告

評価・ご意見 入力方法

Googleフォーム: <https://forms.gle/MtVaXhyHGPzg4Dg79>

令和6年度 第二回学校関係者評価委員会
評価

令和6年度教育重点項目 前期実施報告

yosuke@jec.ac.jp [アカウントを切り替える](#)

* 必須の質問です

メールアドレス *

yosuke@jec.ac.jp

御名前 *

ポバイ



令和6年度 第二回学校関係者評価委員会 教育重点項目実績報告(前期)



報告内容

1. 学校の近況

2. 教育重点項目（中間報告）

1) NEXT10「日本電子専門学校のさらなる伸張」

- (1)「建学の精神」の実現に向けた「教育の質の保証・向上」
- (2)学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実
- (3)新設学科開発フレームを活用した調査・検討
- (4)遠隔授業の標準化・質保証と先端テクノロジーの利活用

2) クリエイター教育/エンジニア教育の重点項目



令和6年度 学校の近況

校長 船山 世界

- 学校教育法の一部を改正する法律(6/14公布)
 1. 大学等との制度的整合性を高める措置として、専修学校専門課程、いわゆる専門学校の**入学資格を見直す**とともに、学習時間に関する基準を「**単位数**」により定めることができるようにします。
 1. 専門学校修了者の学修継続の機会確保や社会的評価の向上のための措置として、一定の要件を満たす専門学校に**専攻科を置くことができる**こととし、当該専門学校の修了者は専門士と称することができることとします。
 1. 教育の質の保証を図るための措置として、専門学校に大学と同等の項目での**自己点検評価を義務付ける**とともに、**外部評価を受けることを努力義務**とします。

- 第19回若年者ものづくり競技大会(出場全種目入賞)
7/31-8/1 群馬県高崎市
 - ITネットワークシステム管理職種
 - 金賞/厚生労働大臣賞 村井 潤(ネットワークセキュリティ科)
 - 業務用ITソフトウェア・ソリューションズ職種
 - 銀賞 加藤駿希(情報システム開発科)
 - 電気工事職種
 - 敢闘賞 永野幹泰(電気工事技術科)
 - ウェブデザイン職種
 - 敢闘賞 青柳光軌(Webデザイン科)
 - グラフィックデザイン職種
 - 敢闘賞 北村 匠(グラフィックデザイン科)

- ・ 今枝文部科学副大臣勉強会に出席(8/21)



- 高等教育の修学支援新制度(大学等の無償化)
 - 令和7年度も対象校に認定

大学生・高校生・保護者の皆様へ

学びたい気持ちを 応援します



大学・短大・高等専門学校、専門学校での
学びの支援を令和2年4月から開始

高等教育の修学支援新制度(授業料等減免と給付型奨学金)

**大切な
お知らせ**

対象校リストで、進学先、在学の
学校が対象校か確認しよう!!
(大学・短大・高専・専門学校)

- 第27回スポーツフェスティバル2024開催
 - 9/20 in 東京ドーム with iU
 - キャッチフレーズ 「New Challengers」



学校の近況(6/10)



学校法人 電子学園

日本電子専門学校

- 29年連続出展！
 - 「東京ゲームショウ2024 in 幕張メッセ」(9/26-29)

ゲームで
世界に
先駆ける。



TOKYO
GAME
SHOW
2024
9.26 - 9.29

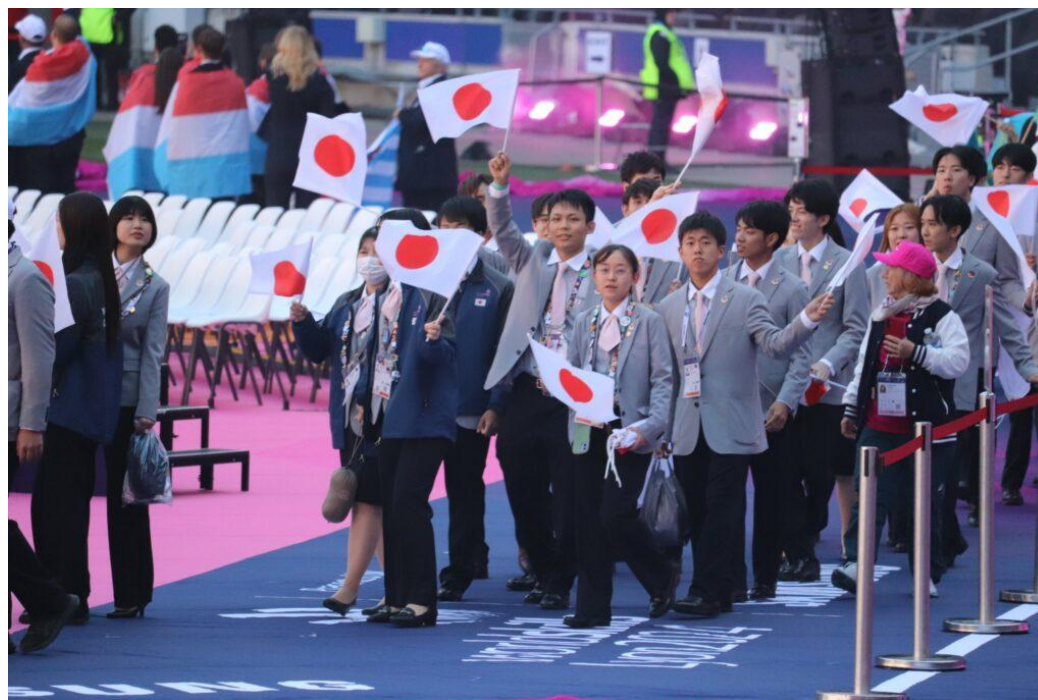
学校の近況(7/10)



学校法人 電子学園

日本電子専門学校

- 第47回技能五輪国際大会inリヨン(9/10-15)
 - 3Dデジタルゲームアート職種 世界6位敢闘賞
 - 木村 美保(コンピュータグラフィックス科)



- 内閣府知的財産戦略推進事務局長視察(10/15)
 - アニメ・ゲームなど国産コンテンツ強化・推進



- 東京出入国在留管理局から「適正校(クラスⅠ)」として選定(10/25)
 - 選定の概要
 - 出入国在留管理庁においては、留学生に係る入国・在留審査を適切かつ円滑に行う観点から、毎年、在留資格「留学」により留学生を受け入れている教育機関の中から適正校(留学生の在籍管理が適正に行われていると認められる教育機関)を選定しています。
 - 適正校として選定された教育機関は、在籍する留学生が在留許可の申請を行う際に提出書類の一部が省略されるなど、手続の簡素化の対象となります。
 - 適正校のクラス分け
 - 適正校として選定された教育機関のうち、次のアからウまでの基準を全て満たし、特に在籍管理が適正であると認められる教育機関を「適正校(クラスⅠ)」に選定し、それ以外の適正校については、「適正校(クラスⅡ)」に選定します。
 - 適正校(クラスⅠ)に選定された教育機関は、諸申請における提出書類が更に簡素化されます。

- 日専祭を開催しました。(11/2-3)
 - 「今しか創れない明日がある」をキャッチフレーズに、学習成果発表、声優トークショー、屋台などを繰り広げました。



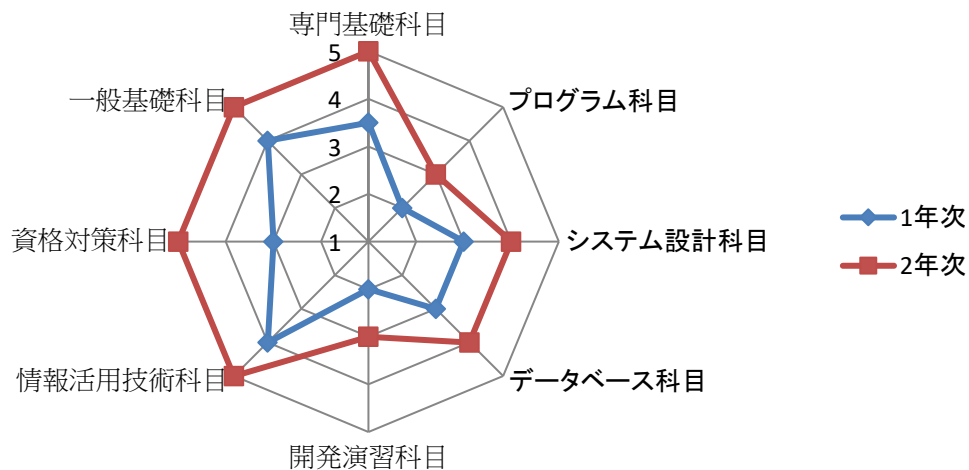


①「建学の精神」の実現に向けた 「教育の質の保証・向上」

副校長 杉浦 敦司



1. 「建学の精神」の実現に向けた 「教育の質の保証・向上」



・ディプロマサプリメント(仮称)による学修成果の可視化

【情報処理科(2年制課程)の例】

学習分野	情報処理科の学修分野を以下の6つにカテゴリ化。 1. ITリテラシ 2. プログラミング 3. データベース・SQL 4. Web技術 5. 設計 6. サーバ構築・運用
スキルレベル	スキルレベル基準として以下の3段階で分類。 レベル3: 成績 A 相当で到達するスキルレベル レベル2: 成績 B 相当で到達するスキルレベル レベル1: 成績 C 相当で到達するスキルレベル (最低限の卒業要件)

学修成果の再設定プロジェクト



学校法人 電子学園

日本電子専門学校

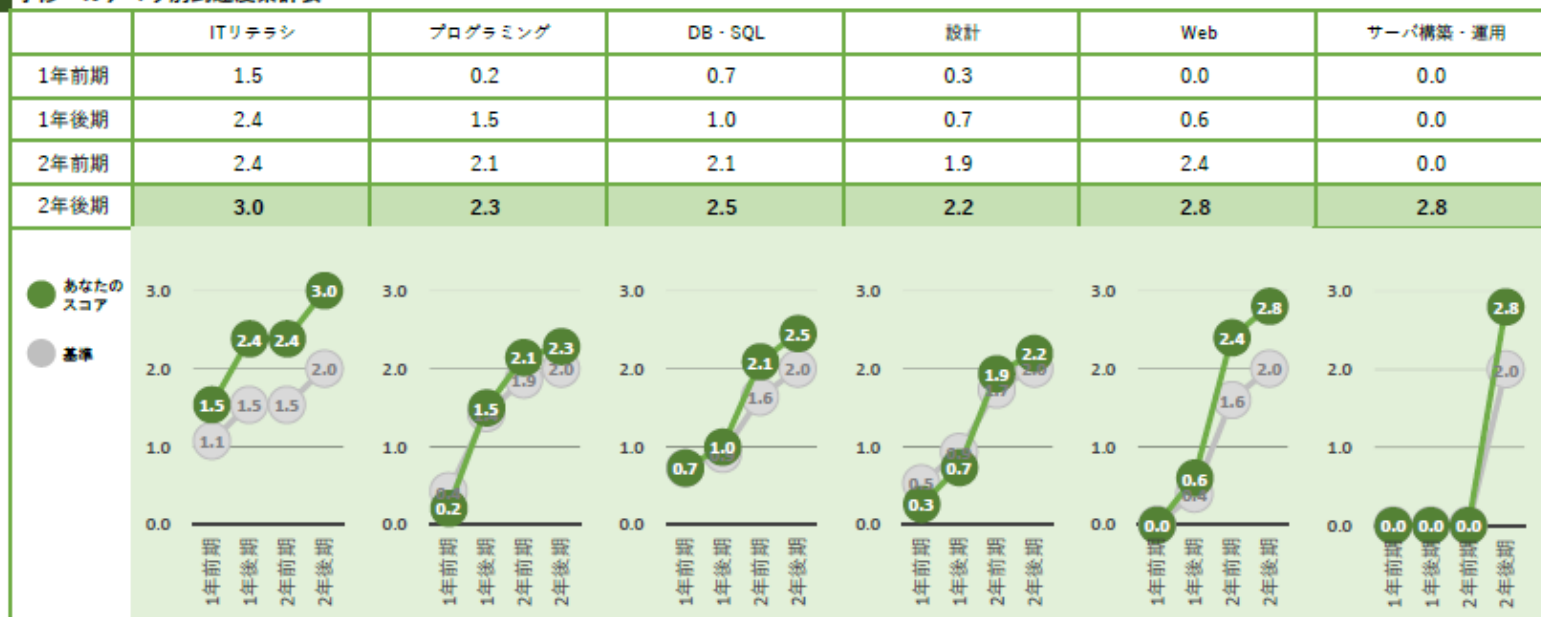
【情報処理科ディプロマサプリメント(例1)】

学修カテゴリと2年後期の学修成果

カテゴリ	カテゴリスキルの説明
ITリテラシ	ITに関する汎用的な知識
プログラミング	プログラミングに関する知識・技術
DB・SQL	データベース設計・SQLに関する技術
設計	ソフトウェア設計・UMLに関する技術
Web	Webアプリケーション開発技術
サーバ構築・運用	Linux・クラウドに関する技術



学修・カテゴリ別到達度累計表



学修成果の再設定プロジェクト



学校法人 電子学園

日本電子専門学校

【情報処理科ディプロマサプリメント(例2)】

強み	ITの知識がしっかり身に付いています。資格取得は技術力の証明になります。ITパスポート試験、基本情報技術者試験など1ランク上の資格を目指すといでしょう。		
課題	全てにおいて平均以上の知識・技術が身に付いており、学習の成果に表れています。すばらしい学習成果と言えます。		
学修カテゴリ	あなたのスキルレベル		
ITリテラシ	3.0	3	基本情報技術者と同等水準の実践的な活用能力を有する。
		2	ITパスポートと同等水準の知識を有する。
		1	情報活用試験3級と同等水準の基礎知識を有する。
プログラミング	2.3	3	OCJP-Silverに相当するJavaのプログラミング知識を有する。JSP, Servletを含めた基本的なWebアプリケーションが作成できる。
		2	OCJP-Bronzeに相当するオブジェクト指向プログラミングの知識を有する。継承、インタフェース、例外を利用し、効率良く開発を行うことができる。
		1	プログラム言語の基本的な文法を修得し、適用出来る。
DB・SQL	2.5	3	E-R図やUMLを用いて卒業制作のデータベースを自ら設計出来る。適切に正規化を行い、効率の良いテーブルを設計できる。
		2	挿入、更新、射影、結合を用いたSQLを発行し、データベースを活用したアプリケーションが作成出来る。
		1	SQLを用いて関係データベースから目的に合わせたデータを抽出出来る。

産業界のニーズに基づいた基礎的・汎用的能力の養成プロジェクト



学校法人 電子学園

日本電子専門学校

・ジェネリックスキル診断「PROG」を活用し 基礎的・汎用的能力を測定

※「PROG」とは、社会で求められている能力を“リテラシー”と“コンピテンシー”の二側面で客観的に測定するアセスメントです。

リテラシー	知識を利用して課題を解決する力(≡思考) ・情報収集力 ・情報分析力(言語処理力、非言語処理力) ・課題発見力 ・構想力
コンピテンシー	経験を積むことで身についた行動特性(≡態度、技能) ・対人基礎力(親和力、協働力、統率力) ・対自己基礎力(感情制御力、自信創出力、行動持続力) ・対課題基礎力(課題発見力、計画立案力、実践力)

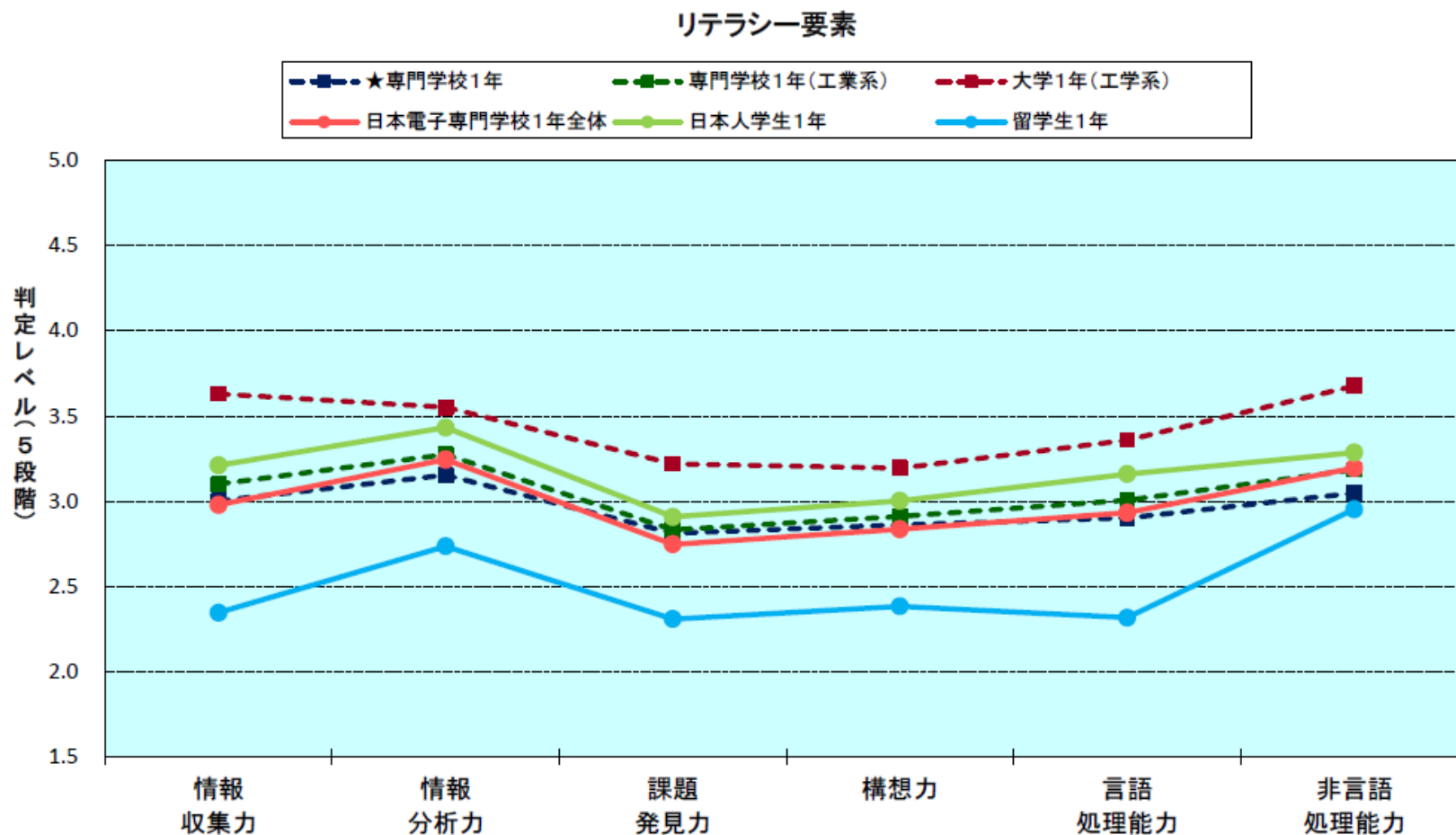
産業界のニーズに基づいた基礎的・汎用的能力の養成プロジェクト



学校法人 電子学園

日本電子専門学校

・リテラシー診断の比較(1年生全体)



産業界のニーズに基づいた基礎的・汎用的能力の養成プロジェクト

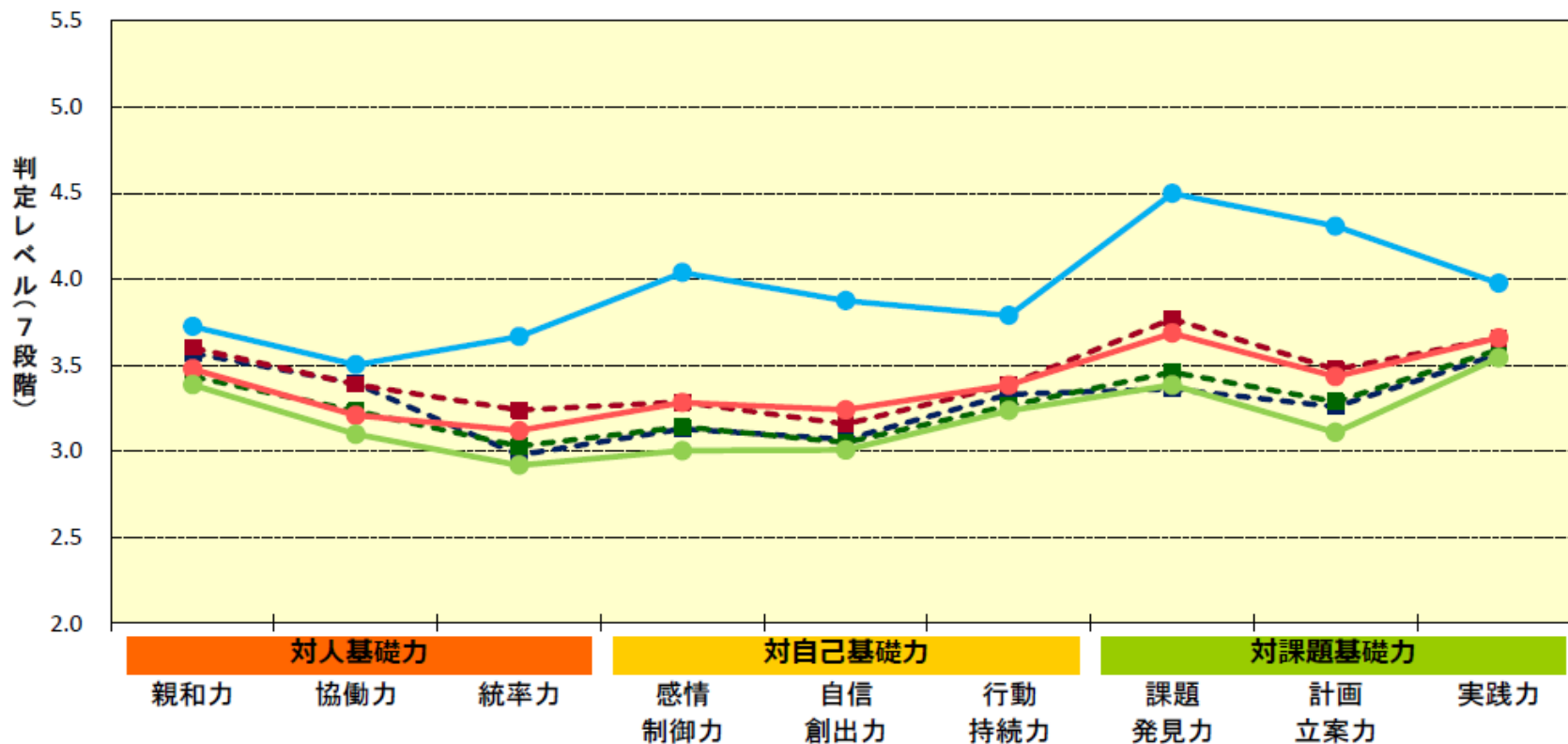
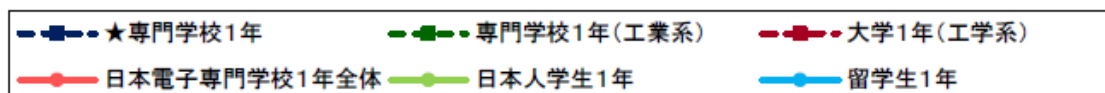


学校法人 電子学園

日本電子専門学校

・コンピテンシー診断の比較(1年生全体)

コンピテンシー中分類要素





② 学生主導で社会人基礎力を養う キャリア教育の充実

キャリアセンター長 井上 直樹

◆本テーマの目的

- ①学生自治会の適正運用
- ②学生主体の学校行事の在り方の検討
- ③クラス内組織の検討を通して、学生の社会人基礎力の向上を図ること

◆前期の実績

- ①学生自治会の適正運用について
 - 新入留学生歓迎会・入学式における新入生のサポート(4月)
 - 新入生オリエンテーション時における学校生活紹介(4月)
 - 新入留学生歓迎会開催(学生自治会主催・予算管理)(4月)
 - クラブ同好会紹介イベントの開催(学生自治会主催・6月)
 - スポーツフェスティバル、日専祭における実行委員活動
 - 学生リーダー研修の実施
 - 学生自治会新聞の発行
 - 学校関係者評価委員会への参加
 - クラス委員長定例会の適正運用について検討・提案

令和6年度 学生自治会メンバー 合計約100名 ※昨年度24名

役 職	氏 名
会 長	根本 昌和
副会長	蔡 ダウム、鈴木 駿介、佐藤 太一
書 記	茂呂 洋佑、他5名
会 計	小嶋 涼太、他3名
庶 務	向後 陽央、他19名
広 報	上條 颯斗、他30名
イベント	山口 知宏、他40名

◆前期の実績

①学生自治会の適正運用について



◆前期の実績

②学生主体の学校行事の在り方の検討

-スポーツフェスティバル実行委員会

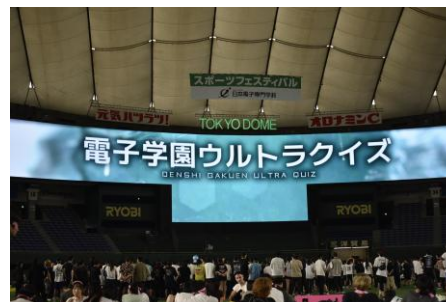
※企画運用会議から学生自治会の学生も参加した。

※30年の歴史の中で初めて、学生が企画した種目を2つ実施
(eスポーツ・借り物競争)できたことは大きな成果であった。

※学生自治会主導で全学生に「満足度アンケート」を実施した。

※他の既存の各種行事においても、主体的に取り組んでもらえる
ように進めていく。

※さらに学生からの発案で、新しい学校行事や新しい取り組みの
提案がなされることを進めていく



◆前期の実績

③クラス内組織の検討

「**クラス委員交流会**」として実施※10月までに2回実施

※クラスの中におけるクラス委員の役割を明確にする

※クラス委員以外の役割に有無ついて、クラス委員交流会で検討する



◆後期の取り組み

* 日専祭実行委員会（無事終了）

- ・ 学生の主体的取組
- ・ 満足度アンケート実施中



* 地域ボランティア活動・町内会との連携

* 留学生に対する後期イベント企画

* 学生自治会会則の見直し

* 令和7年度事業計画・予算計画の完成

* クラス委員交流会の継続実施、検討課題の抽出

など、次年度以降に向けた学生の主体的な活動を進めていく

NEXT10「日本電子専門学校のさらなる伸張」

③新設学科開発フレームを活用した 調査・検討

クリエイター教育 部長 五十嵐 淳之



3. 新設学科開発フレームを活用した調査・検討

学科新設

+

既存学科の見直し

常に「魅力のある、募集力の高い状態」を
保つための土台作り

令和6年度実施予定項目

- ① 新設学科に関する検討
- ② 学科統廃合スキームに基づく既存学科の見直し
- ③ DXスペシャリスト科のフォローアップ
- ④ 附帯教育 教育活動実施に向けた検討・調整



令和6年度上半期の実績

①新設学科に関する検討

一昨年度より、新学科設立について継続的に検討

【一昨年度】

新設学科アイデアを公募

うち1件について、第一次スクリーニング(一次審査)

→ 不合格となるも、「新設学科検討チーム」を設立して継続的に検討することが決定

①新設学科に関する検討

【昨年度】

検討チームの提案と、公募アイディア1件について
第一次スクリーニング → 検討チーム案が合格

新学科設立提案書を作成

役員による第二次スクリーニング(二次審査)
→ 見送り・再検討

①新設学科に関する検討

【今年度】

検討チームの提案を精査、各種調査を実施

- ・企業ヒアリング 3件
- ・卒業生ヒアリング 2件
- ・在校生アンケート調査
- ・他校状況調査

上記調査の結果を踏まえ、教育内容等を検討
改めて新学科設立提案書を作成、役員に提出

①新設学科に関する検討

新学科設立提案書を作成、役員に提出
第二次スクリーニング

→ 現在、前向きに進行中

②学科統廃合スキームに基づく 既存学科の見直し

学生総数、各学科の損益分岐人数等を参考として
各学科の損益分岐点比率の推移を確認

→ 緊急対応が必要な学科がないことを確認

下半期に向けて

- ・新学科設立に向けた諸対応
- ・DXスペシャリスト科のフォローアップ
(募集状況改善に向けた学科教員との情報共有・意見交換 等)
- ・附帯教育 教育活動実施に向けた検討・調整
(リスキリングに関するニーズ調査、試験的な講座開講 等)



NEXT10「日本電子専門学校のさらなる伸張」

④遠隔授業の標準化・質保証と 先端テクノロジーの利活用

エンジニア教育 部長 大川 晃一

- 検討目的

1. 遠隔授業ガイドラインの策定を行う
2. ナレッジベースの構築を行い、業務に関する知見を共有化する
3. 教育への先端テクノロジー利活用の検討を行う

- 令和6年度検討項目

1. 遠隔授業の運用に関するベストプラクティス集の作成
2. オンライン授業運用ツール変更によるフォロー
3. ナレッジベースの運用促進
4. 先端テクノロジーを活用した授業運用ツールの導入
5. 学内全体で利用するLMSの検討・調査(後期)

- 令和6年度前期の取り組み
 - 1) 遠隔授業の運用に関するベストプラクティス集の作成
 - 前期オンライン授業アンケートの結果を受けて、後期に作成を行う。
 - これまでの教育の取り組みをまとめたもの

- 2) 遠隔オンライン授業運用ツール変更によるフォロー
- 3) ナレッジベースの運用促進
 - 教員向け「GoogleMeetを利用したオンライン授業配信」をナレッジベースで公開。複数の先生からZoomで実装していた機能の代替方法の質問や、録画の方法、ブレイクアウトルームの取り扱いなどの質問がありレクチャーを行った。
 - 学生向け「GoogleMeetの使い方」もナレッジベースで公開。CG映像制作科の田原先生が作成したものだが、他学科の先生から利用したいと相談があった。

遠隔教育標準化分科会



学校法人 電子学園

日本電子専門学校

(その他) Google Classroom を経由せず Meet を利用する方法 1 (すぐに接続開始)

①Google アプリ一覧より起動



②新しい会議を作成



③相手を招待する操作



この情報(URL)をメール等で学生へ知らせる必要があり、その後、学生が接続時にリクエスト参加を許可する必要がある

こちらも同様にこの情報
学生が事前に Google Meet
になる。リクエスト参加

教員向け

招待したい【ユーザの追加】しておくことで、メールで通知されるが、通知が若干、相手に届くのが遅い。
ただ、リクエスト参加の許可は不要である。



CG映像制作科 JEC WEEK

オンライン授業ガイダンス

Online class content

オンライン授業に向けた準備 Meet 準備編



Google Meet は、オンラインで会議を開催するために開発された GoogleWorkspace の機能です。

映像や音声を使っているビデオ会議やグループ通話会議が可能です。

※オンライン会議ツールは企業でも使われています！

Meet 以外にも Microsoft Teams、や ZOOM 等があります。

授業の Google Meet の入り方

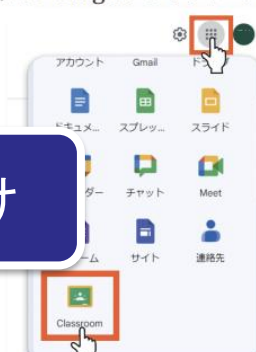
①まずは GoogleChrome にて Google にログインをしよう！

URL : <https://www.google.com/>



学校のアカウントで
ログイン！

②ログインできたら右上の Google アプリアイコンから Classroom をクリック！

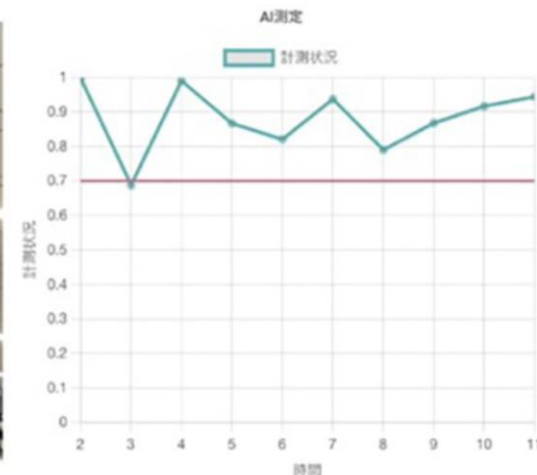


学生向け

4) 先端テクノロジーを活用した授業運用ツールの導入

- 「eduleap」の導入支援

- 情報処理科: ITパスポート試験対策の補助教材
- AIシステム科: G検定試験対策の補助教材
- まだ年間での運用ではないため、導入効果判定はできないが、授業でも有効に活用しているといった報告を受けている。



- 「TrackTraining」の導入
 - モバイルアプリケーション開発科: Java授業の補助教材
 - 想定よりも導入作業が難航している。
既存のJavaの演習課題を120問を移行しようとしたものの、システム上の制約や作問環境トラブルなどがあり、演習課題の全面移行はできず、既存の演習課題と平行での運用となった。作問自体は約4分の1の完成にとどまった。
 - ここで導入した問題を、令和6年度後期に夜間部情報処理科のプログラミング2の授業でも利用する計画ではあったが一旦見送り、次年度の導入に先送りとし、継続して現状の作問作業を行っていく。

- 後期に向けた課題

1. 学生向けオンライン授業アンケートを実施・分析を行い、次年度以降のオンライン授業運用の方針決定に寄与する
2. ナレッジベースへのさらなる知見の蓄積促進
3. ベストプラクティス集の作成
4. 学内全体で利用するLMSの検討・調査
5. 課題進捗確認システム(TrackTraininig)の問題データの蓄積と次年度の運用手配

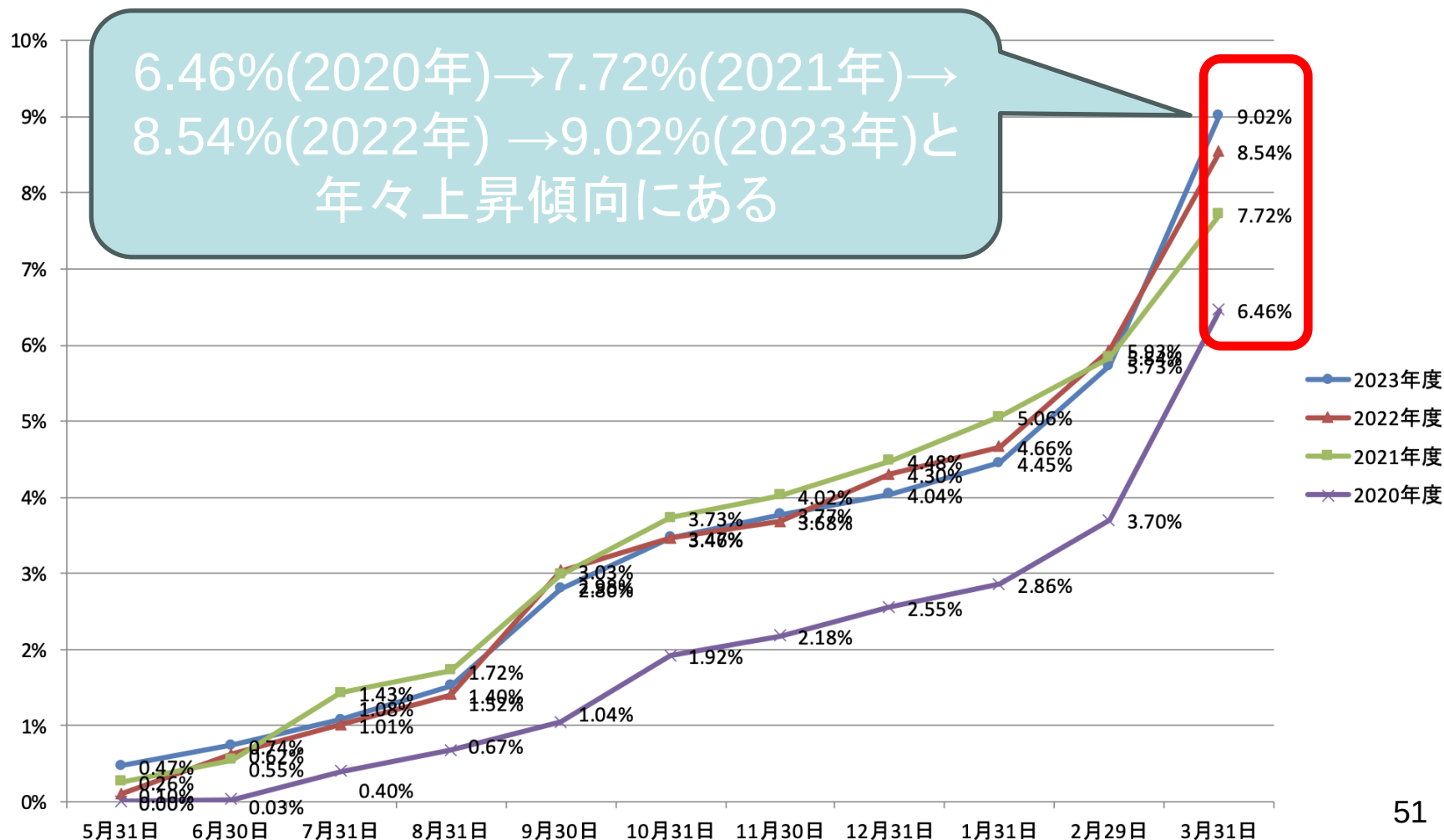


⑤クリエイター教育/エンジニア教育 重点項目

ドロップアウト対策

エンジニア教育 部長 大川晃一

• 2023年度(令和5年)結果



教育重点項目

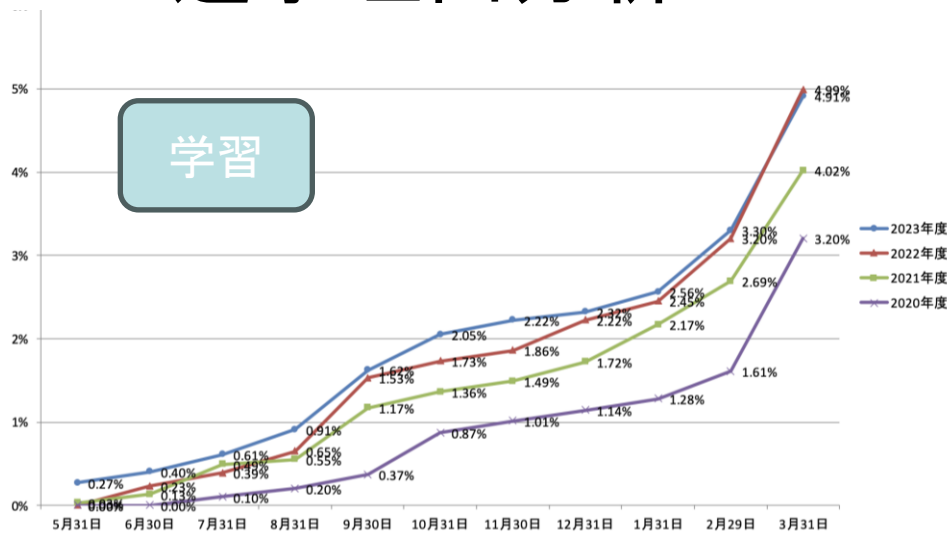


学校法人 電子学園

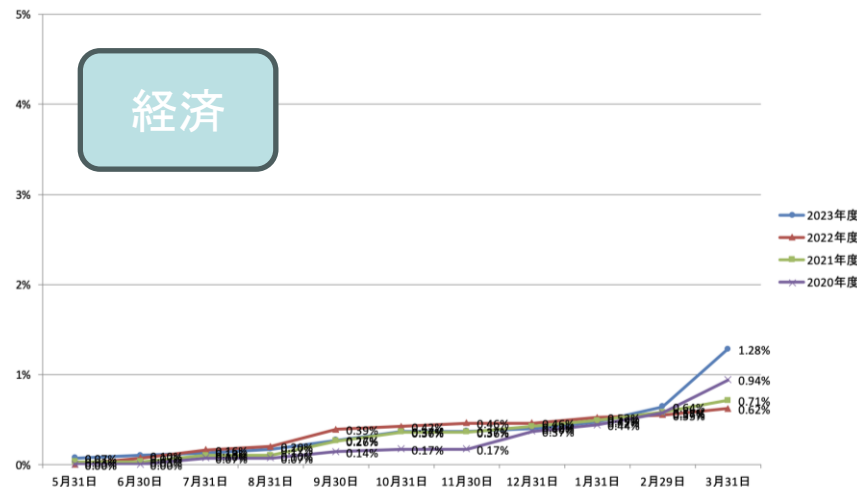
日本電子専門学校

退学理由分析

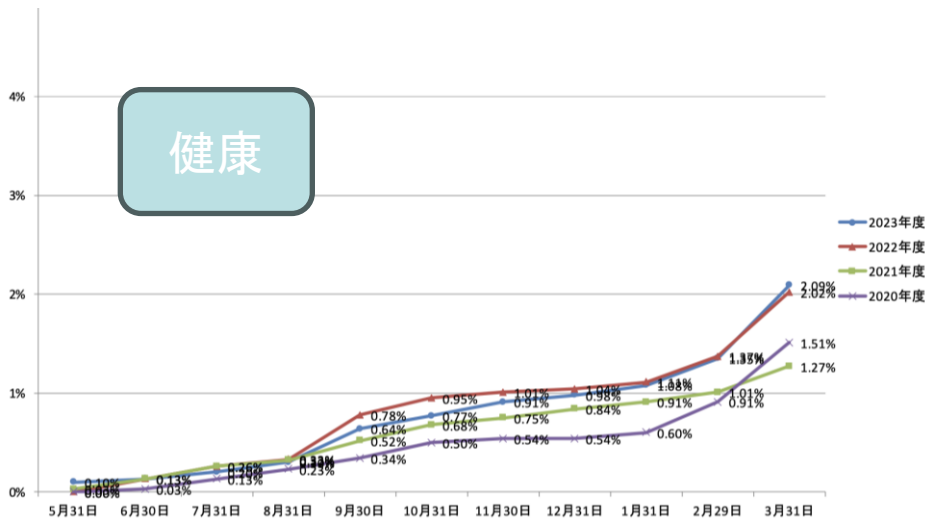
学習



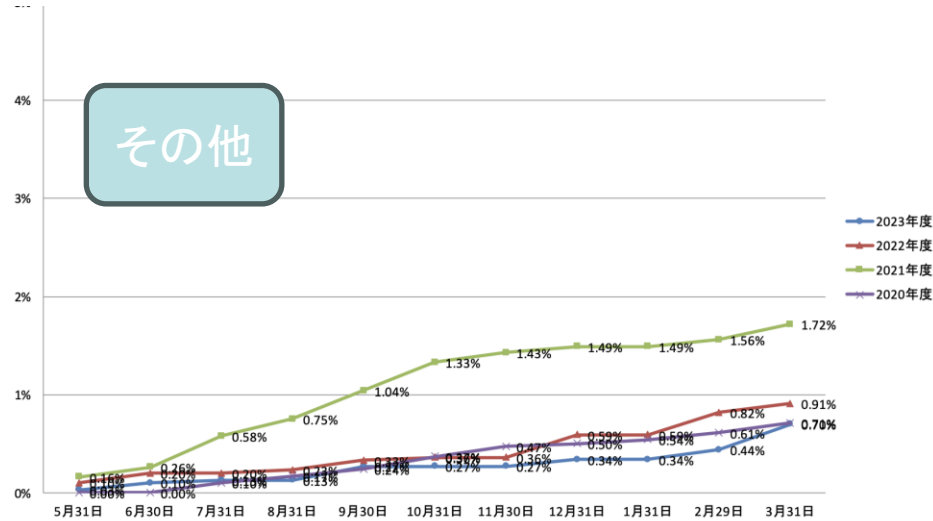
経済



健康



その他



• 退学理由分析

学習

対象年	退学率
2021年	4.02%
2022年	4.99%
2023年	4.91%

経済

対象年	退学率
2021年	0.71%
2022年	0.62%
2023年	1.28%

学習理由での退学についてはほぼ例年通り
経済理由での退学が倍増している

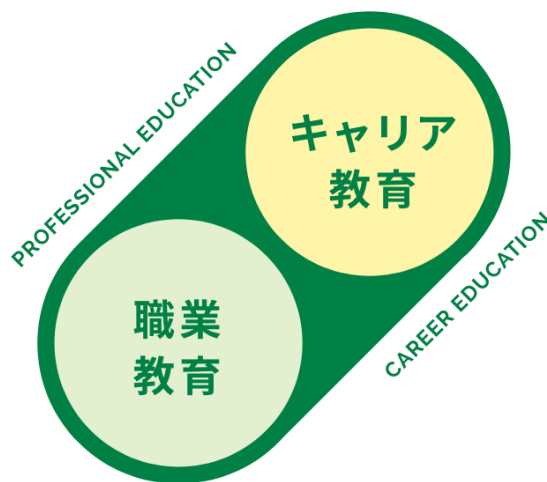
健康

対象年	退学率
2021年	1.27%
2022年	2.02%
2023年	2.09%

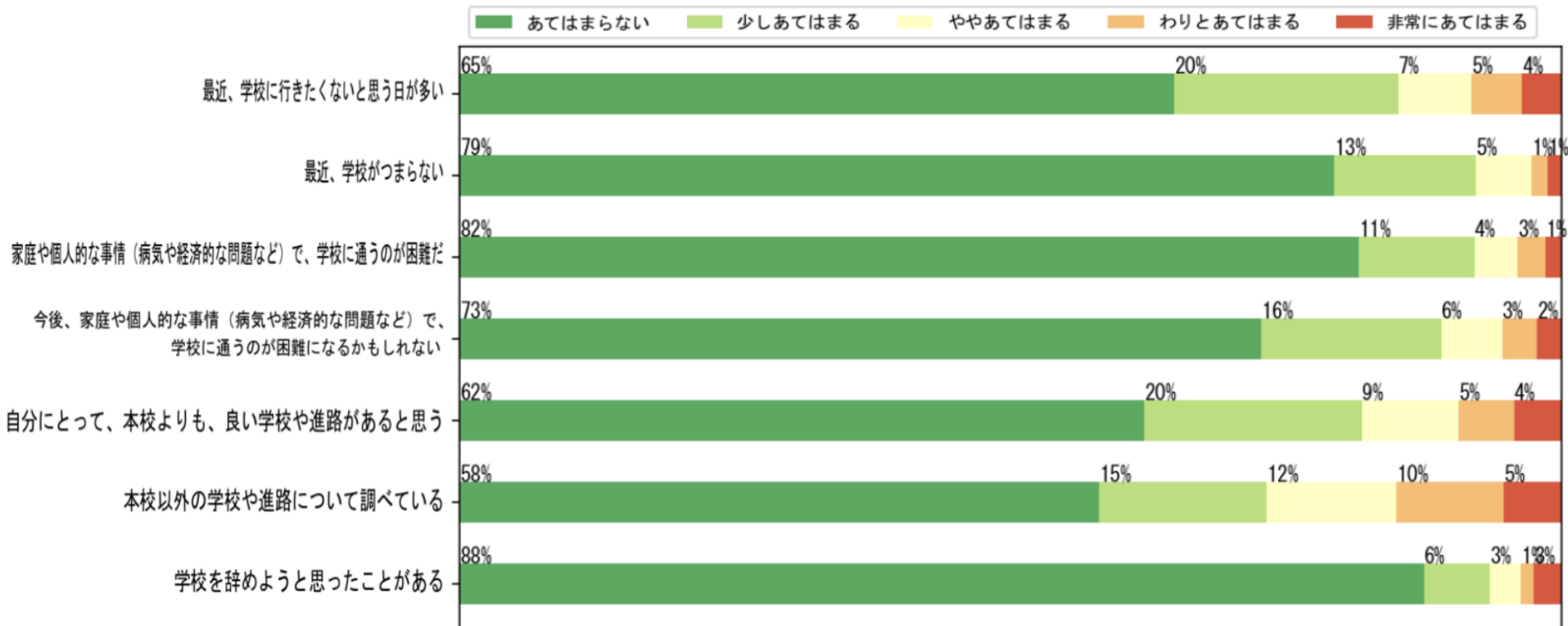
その他

対象年	退学率
2021年	1.72%
2022年	0.91%
2023年	0.71%

- ドロップアウト対策の強化
 1. エンジニア教育・クリエイター教育ともに共通の問題として取り組む
 2. キャリアセンターとも連携して対策を実施



- 新入生アンケートの実施
入学者傾向、休退学の傾向調査
各学科と情報共有し学生動向を注視する



- 2024年度(令和6年)入学者の傾向
 1. 入学時の進路検討度が低下傾向にある
 2. 毎日の通学に慣れていない入学者が一定数いる
 3. ドロップアウトのきっかけとして学生個々に個別の問題を抱える案件が増えている
 4. 留学生の増加(214名→374名)

• 対策内容

- 放課後オープン実習の実施回数の増加
- 学習の習熟度に合わせて進度別授業の開講
- 上級生・下級生の交流会実施
- 課題の進捗状況をスプレッドシートで全教員でリアルタイムに共有し指導
- 学生の遅刻・欠席状況を全教員で共有
- 復習用教材を作成し欠席学生の学習をサポート
- 留学生(卒業生含む)交流会の実施

- 前期結果（経年比較）

対象年	退学率（全体）	退学率（学習）
2020年度	1.04%	0.37%
2021年度	3.03%	1.17%
2022年度	2.98%	1.53%
2023年度	2.80%	1.62%
2024年度	2.17%	1.27%

学習理由での退学については
ここ近年の中では低い数値で推移している

- 後期に向けて
 - － 昨年度比では改善されているが、急激に増加するのは年度末であるため、現状に満足すること無く、これまでの対応を継続していかなければならない
 - － 1人の教員が負担するのではなく、先端技術・しくみ・ツールを取り入れるなど、学校全体の取り組みとして様々な教職員が関わりながら取り組んでいく